

第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価

第9期介護保険事業計画に記載の内容				令和6年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
1自立支援・介護予防・重度化防止	【現状】高齢者世帯の増加、フレイルリスクの高まり 【課題】健康寿命の延伸に向けた健康づくりの推進、介護予防教室・健康教育の充実	介護予防教室・出前講座の実施	平均自立期間 男性(年齢) R6:80.7 R7:80.9 R8:81.1 平均自立期間 女性(年齢) R6:85.4 R7:85.6 R8:85.8 要介護認定率(割合) R6:15.9 R7:16.1 R8:16.3 介護予防教室及び出前講座の参加者数(延人数) R6:2,300 R7:2,400 R8:2,450	○高齢福祉課及び地域包括支援センターで介護予防教室や出前講座を実施した。 栄養講話や口腔指導を取り入れた講座や、理学療法士や管理栄養士による講座を行った。 ・平均自立期間 男性 80.6歳 ・平均自立期間 女性 84.8歳 ・要介護認定率(割合) 16.0% ・介護予防教室・出前講座の参加者数(延人数)2,766人	◎	○アフターコロナとなり、高齢者の外出意欲が高まったと思われる。 ○単身高齢者・後期高齢者の増加に伴い、フレイルリスクが高まっている高齢者が多いと見込まれる。 ○リピーターが多いこと、男性参加者が少ないことから、介護予防教室の新規参加者の開拓や男性の参加者数の増加を図る必要がある。 ○地域包括支援センターと連携して介護予防教室や出前講座を実施し、市民に広く周知する。また、シルバーハビリティ体操指導士による出前講座を実施する。
1自立支援・介護予防・重度化防止	【現状】高齢者世帯の増加、フレイルリスクの高まり、地域交流の希薄化、介護人材不足 【課題】助け合い・支え合いの仕組みづくり、介護予防の充実、在宅生活継続のための支援の充実、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍できる環境づくり	高齢者安心支えあい事業(ささエールポイント)	ささエール会員登録者数(会員数) R6:70 R7:80 R8:90	○支援者自身の介護予防と地域での支えあい活動の活性化を目的とし、介護予防・生活支援の担い手となる「ささエール会員」の活動に対し、ポイントを付与した。支えあい活動の機会を提供することにより、活動を行う高齢者の介護予防と生きがいづくりに寄ることができた。 ・活動総件数 382件 ・商品券交換枚数 30枚 ○会員増加のため、各地区にて会員養成講座を2クール実施した。また、会員向け勉強会を実施した。 ・ささエール会員登録者数 64人 ・会員養成講座参加者 延べ61人 ・会員向け勉強会参加者 18人	◎	○ポイント付与対象活動を拡大したことから、介護予防事業の補助活動等が増加し、活動総件数が前年比約30%増加した。 ○商品券交換可能ポイントを見直したことから、交換枚数が前年度の約3倍となった。 ○コロナ禍前に主な活動の場であった介護施設等での活動が少ないため、活動の場の確保が課題となっている。 ○引き続き介護施設へ活動の受け入れについての働きかけを行う。ささエール養成講座に加え、会員向け勉強会を開催する。
1自立支援・介護予防・重度化防止	【現状】高齢者世帯の増加、フレイルリスクの高まり 【課題】健康寿命の延伸に向けた健康づくりの推進、口腔機能低下による誤嚥性肺炎や生活習慣病等の重症化予防	ぎふ・さわやか口腔健診	ぎふ・さわやか口腔健診受診率(%) R6:8.7 R7:9.2 R8:9.7	○後期高齢者医療保険加入者の健康な歯と口腔を保つため、歯科健診(問診、歯科検診、口腔機能の評価)を実施した。 ・ぎふ・さわやか口腔健診受診率 8.2%	◎	○受診率は令和5年度より増加しているが目標値までには届いていない。周知不足や歯科医療機関の体制等が要因と考える。 ○歯科健診の重要性やフレイルとの関係の周知を広め、歯科医師会との連携や協力、体制づくりを強化し受診率向上につなげていきたい。
1自立支援・介護予防・重度化防止	【現状】高齢者世帯の増加、フレイルリスクの高まり、在宅生活継続のための支援の充実、地域交流の希薄化、集いの場の縮小 【課題】生きがいや充実感を持ち主体的に地域生活が送れる環境・体制づくり、介護予防の充実、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍できる環境づくり	高齢者の生きがいづくりと社会参加	長寿クラブ連合会登録会員数(人数) R6:896 R7:896 R8:896 介護予防の自主グループ登録団体数 R6:24 R7:24 R8:24 シルバー人材センター登録会員数 R6:230 R7:230 R8:230	○長寿クラブ連合会、シルバー人材センター、介護予防活動を行う自主グループへ補助金を交付した。 ○依頼のあった長寿クラブや介護予防活動の自主グループで介護予防出前講座を実施した。 ・長寿クラブ連合会会員数 829人 ・介護予防の自主グループ登録団体数 21団体 ・シルバー人材センター登録会員数 265人	◎	○長寿クラブ連合会の会員数、自主グループ数は減少したが、シルバー人材センター会員数は微増した。 ○団塊の世代が75歳以上となり、少子高齢化がますます進行し、介護現場等の人材不足が深刻な問題となっている現状から、元気な高齢者が担い手となり地域で活躍する場の提供が必要である。 ○引き続き、長寿クラブ、シルバー人材センター、自主グループの活動へ補助を行う。
1自立支援・介護予防・重度化防止	【現状】認知症高齢者の増加、高齢者世帯の増加、地域交流の希薄化、介護人材不足 【課題】認知症への支援の充実、在宅生活継続のための支援の充実、助け合い・支え合いの仕組みづくり	認知症施策の充実	認知症サポーター養成講座受講者数(単年度) R6:160 R7:165 R8:170 脳活イキイキ教室参加者数(実人数) R6:32 R7:32 R8:32 認知症初期集中支援チーム利用者数(人数) R6:2 R7:2 R8:2	○認知症サポーター養成講座 認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族に対し出来る範囲での手助けをする認知症サポーターの養成を行った。学生や市民に対して講座を開催した。 ・認知症サポーター養成講座受講者数(単年度) 204人(累計 5,353人) ○脳活イキイキ教室 社会福祉法人へ委託し、簡単な計算等の課題、軽い運動、参加者間のコミュニケーションを組み合わせた主体とした教室を実施した。全6回の講座を2クール開催した。 ・参加者29人 ○認知症初期集中支援チーム ・利用者 2人	◎	○認知症サポーター養成講座 今後も関係団体との連携し講座内容を充実するとともに、様々な主体へ広報し講座開催機会を増やしていく。 ○脳活イキイキ教室 受講者の満足度が高く、事後アンケートで、生活に変化があったと回答した割合が多いことから、継続して実施する。 ○認知症初期集中支援チーム 地域包括支援センターが相談窓口としての機能を果たしており、必要な人に適切に受診等を促すことができている。センターが対応しきれないような困難事例が発生した場合には、速やかに初期集中支援につなげる必要がある。
2給付適正化	【現状】介護給付費の増加、介護保険料の増大 【課題】持続可能な介護保険制度の構築、不適切な給付の削減	介護給付費適正化の推進	認定調査票の点検(件数) R6:全件 R7:全件 R8:全件 ケアプランの点検(件数/年) R6:40 R7:40 R8:40 福祉用具購入・貸与に関する実態調査(件数/年) R6:20 R7:20 R8:20 住宅改修に関する実態調査(件数) R6:全件 R7:全件 R8:全件 縦覧点検、医療情報との突合(件数) R6:全件(委託) R7:全件(委託) R8:全件(委託)	○適正化システムを利用して、不適正な給付になっていないか確認をした。 ○スーパージョンによるケアプラン点検を、地域包括支援センター、主任ケアマネジャーと協働で実施した。 ・認定調査票の点検 全件 ・ケアプランの点検 17件 ・(書面チェック 14件 スーパージョン点検 3件) ・福祉用具 12件 ・住宅改修 全件 ・縦覧点検、医療情報との突合 全件	○	○適正化システムを利用して、不適切なケアプランのチェックを実施していく。 ○ケアプラン点検について、保険者、地域包括支援センター、地域の主任ケアマネと協働で行った。事業所等の理解と協力を得ながら継続して取り組みたい。